

1 9 9 5 1 2 1 0

## ほほえみ

第 4 号

昔から「笑う門には福来る」といいますが、今「笑うとガンが治る」ということが学問として研究されています。誰かが愉快そうに、楽しそうに笑っているのを見たときどんな感じを受けますか。見ている方まで楽しくなるということはありますか。これが笑いの持っているエネルギーで、楽しい気持ちは人間の免疫力を高めガンをも治してしまうということです。

岡山県の病院では実際に笑いが治療に取り入れられ、患者がお互いに身の回りの出来事をユーモアたっぷりに話し合い周りも自分も愉快的状態を作りだす。そして十分にリラックスしたあとで、自分の白血球がガン細胞を次々と食べていくという瞑想を続けるという、イメージ療法を取り入れているということです。

私たちも大いに笑って病気を追い出しましょう。

### < 第 6 回 ほほえみの会 >

今日までに会員は 45 人となりました。師走の今回は 15 人程が参加しました。冒頭「のぞみの会」静岡支部の十亀さんから先月「ほほえみの会」と合同で行われた支部会の報告が行われ、当日の三間屋先生の講師料 1 万 5 千円とバザーの売上金の一部 1 万円を「ほほえみの会」に寄付していただきました。

12 月 4 日の新聞に白血病が治った人の細胞チェックが簡単に出来るようになった、との記事が載っていました。この記事について質問が出て坂下先生が説明してくださいました。

白血病の細胞が無くなったかどうかは現在骨髓を取り出して顕微鏡検査をしている。悪い細胞が 5 % 以下になると寛解（かんかい）

それ以上は検査できない。それを癌抑制遺伝子でもっと詳しく調べられることがわかったというもの。しかしまだ問題点もあり、

難しいものでもある。

大阪大学の研究発表ですでに1年前に発表されたもので、なぜ今記事になったのかわからないが、こども病院でもすでにこの検査を導入している。末梢血幹細胞移植や自家骨髄移植をやった人にも応用している。

子供の現状や親の悩みについて次のような話が出ました。

腫瘍の摘出手術をしたがその後、炎症反応が高い。調べたところ患部に近くに血液の固まりが見つかった。そのため3週間後に再手術した。2回目の手術には親も本人もショックで、子供は我が儘を言って暴れる。

親の辛い気持ちも分かるが、子供の状態が悪ければわがままも言えない。言えるだけいいと思えばどうだろうか。また、お利口すぎて子供に欲求不満がたまりすぎる方が心配ではないかとの意見も出ました。

2歳の子が4ヶ月目で退院できた。これから外来に通うが、薬を飲めないのが心配。注射器で飲ますと吐いてしまう。

市販の小さなカプセルで試してみたらどうか。

また移植の順番待ちの人もあり、無菌室の増設が望めないかとの意見も出ました。

これに対して、骨髄バンクの適合者が増えたことや、末梢血幹細胞移植の導入で移植が増えている。前々から無菌室増設の要望はあるが今の病院では構造上難しいとのこと。

次回「ほほえみの会」は1月14日(日)12時からです

私の娘は先月、甲状腺腫瘍の摘出手術を行いました。早期の発見、手術、先生方のご努力で幸い全摘にいたらず、機能を残すことが出来ました。約3週間で退院し本人は元気です。

いろいろとご心配をおかけしました。

これは喉の腫れを母親が見付けたもので、検査ではいっさいでないものでした。子供の体については常に注意が必要です。

みなさん良いお年をお迎えください。